



type of pig

豚の主な品種

type of pig



©独立行政法人 家畜改良センター

■発祥地・肥育エリアなど

イギリスのヨークシャー州地方において、在来種に中国種、ネアポリタン種、レスター種などを交配して1870～1880年頃までに成立。イギリス、アメリカ、スウェーデン、オランダなどにおいて広く飼育されており、日本においてもイギリス、アメリカから輸入され、主として繁殖豚として利用されています。

大ヨークシャー種

[Large YorkshireまたはLarge White]

■特徴

皮膚は白色。ベーコンタイプの代表的な品種。繁殖能力に優れていて、一腹あたりの生産頭数が多いです。肉質は、赤肉と脂肪の割合に均衡が取れており、加工品の原料として高い評価を得ています。



©独立行政法人 家畜改良センター

■発祥地・肥育エリアなど

デンマークの在来種に大ヨークシャー種を交配して成立。デンマーク、イギリス、オランダ、スウェーデンなどにおいて多く飼育されています。日本においてもイギリス、オランダ等から輸入され、純粋種では最も多く飼育されています。

ランドレース種

[Landrace]

■特徴

毛色は白色。産子数が多く、泌乳量も多くて育成率が高いため、繁殖能力に優れています。肉質としては、背脂肪が薄く赤肉率が高い。現在、各国で改良が進められています。



©独立行政法人 家畜改良センター

デュロック種

[Duroc]

■発祥地・肥育エリアなど

アメリカのニューヨーク州、ニュージャージー州を中心としたアメリカのニューヨーク州、東部地方が原産地。アメリカで多数飼育されています。日本では、実用豚生産のための雄型品種として利用されるのが一般的です。

■特徴

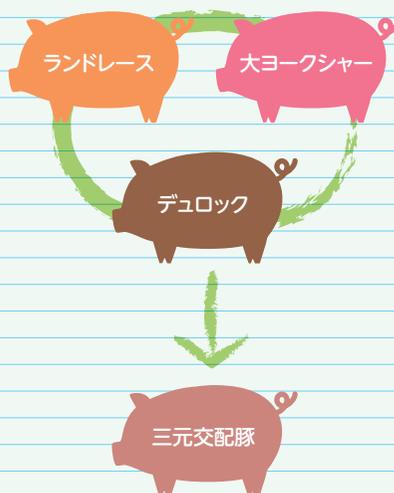
皮膚は褐色（個体によって濃淡がある）。性質はおとなしく、体質強健。産子数も多く、放牧に適しています。



普通豚

(三元交配豚)

- 国内で生産・流通している大半が、ランドレース種・大ヨークシャー種・デュロック種の3種類の品種を交配した普通豚(三元交配豚)です。
- 繁殖性、産肉性、肉質のバランスをとるために、3種類の純血種を掛け合わせています。
- 国内では伝統的に、繁殖性の優れたランドレース種(L)と大ヨークシャー種(W)を掛け合わせた交配豚(LW)を子取り母豚とし、さらに肉質の優れたデュロック種(D)を掛け合わせた交配豚(LWD)を肥育したものが主流です。
- 通常、生後180～190日齢、体重105～110kgで出荷されます。



豚の主な品種

type of pig



黒豚

©独立行政法人 家畜改良センター

■発祥地・肥育エリアなど

イギリス西部バークシャー地方とウィルツシャー地方の在来種にシアメース種、中国種、ネオポリタン種などを交配して成立。日本では鹿児島地方に多く飼育されており、「黒豚」の名で親しまれています。

バークシャー種

[Berkshire]

■特徴

皮膚は黒色だが、四肢・鼻・尾の先に白はんを持っています。体質強健で産子数はやや劣るが、哺育は巧みです。肉質、脂肪質ともに優れており、生肉用に適しています。



©独立行政法人 家畜改良センター

■発祥地・肥育エリアなど

アメリカのケンタッキー、マサチューセッツ州が原産地。アメリカで多数飼育されています(登録頭数が最も多い)。日本では、主として交配用の種雄豚として利用されています。

ハンプシャー種

[Hampshire]

■特徴

体は黒色で、肩から前肢にかけて幅10～30cmの白帯を持っています。産子数はやや少ないが、哺育能力に優れ、発育、飼料効率のよい品種。背脂肪が薄く、筋肉量が多く、もも肉も充実しており、肉質としては良好です。